

# あの頃の風景

山陽道編 第2回

## 時代とともに姿を変えた商都「尾道市」

大日本コンサルタント株式会社／経営統括部経営企画室  
遠藤徹也 ENDO Tetsuya (会誌編集専門委員)



① 尾道三山の一つ浄土寺山から眺めた明治期の尾道市街

広島県尾道市は風光明媚な都市として高い知名度を持っている。市街地は対岸の向島との間に流れる狭小な尾道水道に面し、後方には山が迫る。平地が少なく山肌密集した寺院や住宅、船舶が往来する尾道水道と向島の造船所、この独特な景観は映画のロケ地として選ばれる所以ともなっている。また、平成の大合併により、しまなみ海道沿いに連なる向島、因島、生口島も尾道市域となり、今や観光と商業の面で本州四国間の重要な結節点となっている。

尾道の開港は、平安時代の嘉応元(1169)年、後白河法皇の所領地備後国大田庄の年貢積出の公認港となったことから始まり、江戸時代には北前船の寄港地として発展、豪商の町として隆盛を極めた。

明治時代に入ると現在のJR山陽本線に当たる山陽鉄道が開通し、尾道は鉄道と海運の結節点として備後

地方最大の都市としての地位を築いた。線路は市街地を貫くルートが選ばれ、その際に立ち退いた人々の家屋が山手の斜面地に建ち並ぶようになったことから、今日の「坂の街」尾道が形成された。また、回漕業が盛んであった因島では、明治期以降に近代造船が発達し、幾度かの好況と不況を繰り返しながらも造船が当地方の産業を支えてきた。

昭和43(1968)年には尾道水道を跨ぐ尾道大橋が開通、平成11(1999)年にはしまなみ海道が全通し、尾道は愛媛県の今治と直結したことで物流面での利便性が向上した。さらに、建設中の中国横断自動車道(尾道松江線)が開通すると、「瀬戸内の十字路」としての新たな発展が期待される。

一方、このような交通網の整備は、当地方を取り巻く環境を一変させ、特に島嶼部にとっては住民の生活だ



©坂井敬樹

- ②(上) 昭和30年代の向島兼吉の渡船場。かつては12航路が尾道と向島を結んでいた
- ③(右) 現在の尾道渡船。頻繁に行き来する渡船は、今でも人々の大切な交通手段となっている



- ⑥(下) 千光寺山から眺めた昭和28年当時の尾道市街地。市街地に高い建物は見られない
- ⑦(右) 尾道水道に架かる尾道大橋と新尾道大橋が見える。架橋により、それまで渡船が唯一の交通手段だった島との交通に大変革をもたらした



©坂井敬樹



- ④(上) 長江口から見上げた昭和31年当時の千光寺山
- ⑤(左) 昭和32年に千光寺山山頂までのロープウェイが開通。現在では定番の観光ルートとなっている



- ⑧(下) 昭和初期の尾道港商船棧橋を出港する大阪商船。当時の新聞の航路時刻表によると、尾道港は、瀬戸内海沿岸はもとより、樺太や中国大陸、朝鮮半島への航路が開設され、国際港としての役割も担っていた
- ⑨(左) 現在の中央棧橋から眺めた尾道水道



©坂井敬樹

けでなく、観光面でも大きなインパクトを与えた。その反面、瀬戸内海航路は本州四国連絡橋への利用者シフトなどの影響により減便と廃止が進んでおり、雇用、災害時の代替交通手段の確保といった面からも、地域が一体となって船と橋の共存策を検討していくことが求められている。

尾道水道を南北に行き交う渡船は、尾道らしい風景を醸し出している。かつて尾道と向島を結んだ多くの渡しも健在するのは4航路となり、港町の風景は大きく変化した。さらに、尾道は高齢化と人口減少という典型的な地方都市としての問題も抱えている。こうした状況のなかで、斜面地の空き家の再生、「映画の街」から消えた映画館の復活、はたまた観光ガイド犬まで、尾道の活性化に向けた取り組みが随所で行われており、それが新しい魅力となって人々を惹き付けている。

航路、鉄路、高速道路と、時代とともにその姿を変えてきた尾道には、今でも商都として積み重ねてきた歴史と尾道らしさを感じる。これからも尾道の人々の暮らしのなかで「らしさ」が継承されつつ、都市として新たな誘引力が育まれていくことを期待したい。

### <参考文献>

- 1)「尾道商業会議所記念館ホームページ」  
[http://www.city.onomichi.hiroshima.jp/kanko/data\\_ono/kinenkan/kinenkan.html](http://www.city.onomichi.hiroshima.jp/kanko/data_ono/kinenkan/kinenkan.html)
- 2)「尾道・三原・因島今昔写真帖 保存版」郷土出版社 平成16年8月
- 3)「尾道…セピア色の記憶 絵葉書に見るありし日のオノミチ」尾道学研究会 平成21年1月
- 4)「尾道まちづくり 過去・現在・未来」尾道大学地域総合センター 平成20年8月
- 5)「IRC調査月報2009.9」いよざん地域経済研究センター 平成21年9月

### <取材協力>

尾道商業会議所記念館

### <写真提供>

写真①、⑧ 尾道学研究会 写真②、④、⑥ 坂井敬樹  
写真③、⑤、⑦、⑨ 筆者